

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年12月8日(2005.12.8)

【公表番号】特表2002-510303(P2002-510303A)

【公表日】平成14年4月2日(2002.4.2)

【出願番号】特願平11-502861

【国際特許分類第7版】

C 0 7 C 2/58

C 0 7 B 61/00

C 0 7 C 9/21

【F I】

C 0 7 C 2/58

C 0 7 B 61/00 3 0 0

C 0 7 C 9/21

【手続補正書】

【提出日】平成17年5月10日(2005.5.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成17年05月10日

特許庁長官 殿



1. 事件の表示

平成11年特許願第502861号

2. 補正をする者

名 称 ザ ユニバーシティー オブ カンザス

3. 代 理 人

住 所 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2丁目12番5号

早川トナカイビル3階

☎3864-4498 Fax. 3864-6280

氏 名 (8015) 弁理士 渡 辺 望 稔



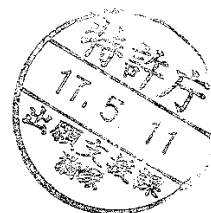
住 所 同 所

氏 名 (9021) 弁理士 三 和 晴 子



4. 補正対象書類名

請求の範囲



5. 補正の内容

(1) 請求の範囲を別紙の通り補正する。別紙において、平成12年11月22日付手続補正書による補正後の請求の範囲第1項～第19項、第21項～第33項、および第35項は削除されている。



『

請求の範囲

1. イソパラフィン、オレフィン、及びモル過剰の不活性の助溶剤または希釈剤を含む反応系混合物 (reactant mixture) を提供する工程、及び

前記反応系混合物をアルキル化触媒と接触させ、アルキレートを含む反応混合物を生成する工程を含むアルキル化の製造方法であり、

前記接触工程が反応混合物の超臨界条件下で行われ、前記反応混合物が $0.05 \sim 0.65 \text{ g/cc}$ の流体密度を持つアルキル化の製造方法。

2. イソパラフィン、オレフィン、及び不活性の助溶剤または希釈剤で、前記助溶剤または希釈剤が前記イソパラフィンやオレフィンの各臨界温度より低い臨界温度を持つ、反応系混合物を提供する工程；及び

前記反応系混合物をアルキル化触媒と接触させ、アルキレートを含む反応混合物を生成する工程を含むアルキル化の製造方法であり、

前記接触工程が反応混合物の超臨界条件下で行われるアルキル化の製造方法。

』